

出雲地域保健医療対策会議 議事概要

【日時】令和5年3月16日（木）14時00分～15時30分

【場所】出雲保健所 大会議室

【出席者】委員21名、事務局12名 計33名

【議事内容】

1 協議事項

(1) 令和4年度の取組について

- ①重点目標に沿った現状と課題について（資料1）
- ②新型コロナウイルス感染症について（資料2）
- ③各団体等の取組について（資料3）

2 報告事項

- (1) 第8次島根県保健医療計画の策定について（資料4）
- (2) 今後の新型コロナウイルス感染症について（資料5）

【主な意見・協議結果について】

1 (1) ①重点目標に沿った現状と課題について

<質疑応答>

Q 病院及び診療所の機能分担及び連携構築を進めることについて。機能別病床数の変化は分かるが、当院では転院が滞っている。転院、機能分担、連携などソフト面での問題があるのではないか。その点の評価をお願いできないか。

A コロナ患者の受け入れも問題になっている。在宅に帰れない、施設に戻れない課題がある。市とも連携して取り組んでいこうというところ。また検討していきたい。

1 (1) ②新型コロナウイルス感染症について

質疑応答なし

1 (1) ③各団体等の取組について

<情報提供>

○出雲市コミュニティセンター長会

コミュニティセンターは市内に43カ所ある。地域の方々の活動拠点として様々な取組を行っている。令和元年度の利用者は約76万人だったが、令和2年度には47万人と大きく減少。R3年度は53万人と戻ってきた。R4年度は、活動自粛はほとんどなかった。高齢者の健康作りに各コミセンは積極的に取り組んでいる。長浜地区では軽スポーツ、減塩、生活習慣病、脳トレなどの活動。支援をして活動の継続を図っていきたい。

○出雲市高齢者クラブ連合会

会員数は1万500名。ここ3年間はコロナ禍のために、多くの活動を中止した。体力低下や社会での孤立が危惧され、少人数でできることはやってもらおうと伝えてきた。その中で健康教室と体操教室について、256ある会員クラブの大半が工夫をしながらやってきた。95歳以上の会員が300名以上在籍しており、自分の存在を分かってもらいたいという思いを尊重したい。これからは健康寿命の延伸を目的にしていく。

○出雲地域介護保険サービス事業者連絡会

出雲市内の介護保険サービスの事業所が延べ330の登録。事業毎の部会に分かれて、活動。ここ2年間は表立って活動できなかった。この間に事業所を閉鎖、休止したところも多い。今年度は認知症に関する全体研修会を実施した。新型コロナウイルス感染症のクラスターが多数発生した。事業者としては、受け入れをしたいが、なかなか踏み切れない。五類感染症への移行後について各事業所は不安に思っている。自施設では、一定のルールを設けて、面会を再開した。元に戻していく動きを徐々に始めている。

○出雲市歯科医師会

普段の診療以外に公衆衛生活動を実施。乳幼児、学童、青壮年期、高齢者と各年代の担当がいる。行政との協働で、啓発、健診を実施。コロナ禍前は、イベントでの啓発活動や出前講座で講演をしていたが、2年間は活動なし。コロナ発生当初に歯科は危ないと報道があり、受診控えも多かった。通院しなくなった方もおり、口腔内が心配。

○出雲医師会

コロナ流行に伴い、健診受診率の低下や子どもの定期接種などのワクチン接種低下も予想されたが顕著ではなかった。現在は、コロナワクチンの接種率低下が問題。

○出雲市立総合医療センター

今年に入り、大きなクラスターが発生。感染対策を頑張っているが、すりぬけて入ってくることを経験。在宅医療には力を入れている。在支病になった。24時間体制で訪問診療、訪問看護を実施。平田地域において開業医の閉院があり、外来患者が増加。在宅診療も午前中だけでは足りず、午後の診療も開始。夜間の往診や看取りで、狭い道を医師が一人で運転して行く状況もある。令和6年度には新しい健診センターを作っていく。経営強化プランについては、これから正式な策定に入る。

○出雲市消防本部

令和4年度の出動件数は約7200件で過去最多。コロナの患者搬送では、全国的に救急車の受け入れが困難であった。出雲圏域では、500件以上の搬送があり、待機は1件とほぼスムーズに受け入れて頂いた。高齢者の搬送が増加している。医療機関へ行く術がないための要請が増加。終末期を自宅で希望する方が多い中で、蘇生・延命処置を拒否される事例がある。毎年十数名はいたが、昨年は1件のみ。そういった方がいる場合は、開業医に連絡し、往診があれば措置をしない。往診がなければ、蘇生処置しながら搬送する状況。全国的にも変わってきており、12時間以内に往診可能であれば措置しない地域も増えている。こういった会議で出雲地域の方針を定めてもらえれば。

○出雲市

コロナ以前から介護人材が不足している。職員の処遇改善加算も数年前から行っているが不十分。介護施設の魅力アップ事業も行っているが、短期的に改善されるわけではない。市内の専門学校も生徒数が今は少ない。若い方に介護、医療の道に進んでもらえるような支援をしていかないといけない。令和5年度のワクチン接種については、医師会

と協議しながら、希望者に提供できる体制を整える。在宅医療関係の研修会で、医療と介護の連携についてPRしている。With コロナ時代になって、顔を合わせる研修も行っていきたい。

2 (1) 第8次島根県保健医療計画の策定について

意見なし

2 (2) 今後の新型コロナウイルス感染症について

<質疑応答>

Q 県として空床確保を今のレベルでやるのか、減らしていくのか。方向性としてどちらを考えているのか。

A 本年9月までの計画を4月中に各都道府県が策定することとされている。コロナウイルスの感染症としての性状が変わる訳ではない。感染症である以上、波を繰り返していく。その時に、全く入院調整をせずに、第9波に臨むことは難しいと考えている。確保病床の増減については、この場では言えないが、4月中に計画を県として立てないといけない。